

新学習指導要領に基づき令和3年度より「学習評価の観点」が変わります

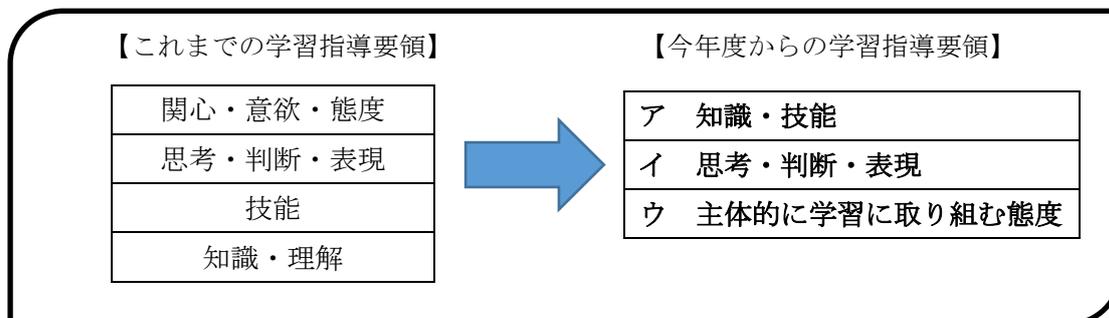
加西市立加西中学校

◇ 変化し続ける未来社会を生きる子どもたちに必要な学力とは…

【学習指導要領で定められた目指す3つの資質・能力】

- ア. 何を理解しているか、何ができるか (生きて働く「知識・技能」の習得)
- イ. 理解していること・できることをどう使うか
(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)
- ウ. どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか
(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)

◇ 目指す3つの資質・能力を踏まえ、各教科における学習評価の基本となる観点別学習状況の評価の観点は次のように変わります



- (1) 観点別学習状況の評価…各教科で決めた評価規準のもと A, B, C の3段階で評価
【単元や題材ごとに評価】

< ア 知識・技能 > ~生き抜く知恵のもととなる力~
知識の習得や概念的な理解を問う問題のペーパーテストや、実際に知識や技能を用いる場面(説明・観察・実験・実技)から評価します。

< イ 思考・判断・表現 > ~課題解決する力~
論述やレポート、発表内容、グループでの話し合い、作品制作、ペーパーテストなどを通して、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を評価します。

< ウ 主体的に学習に取り組む態度 > ~よりよく学ぶ、目標に向かう力~
ノート、ワーク、レポート、ワークシート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価を通して、目標に対して粘り強く取り組んでいるか、また自らの学習を調整しようとしているかを評価します。

- (2) 評定 ※ これまでと同じです
観点ごとの評価を総括し、絶対評価により5段階(5・4・3・2・1)で評定します

◇学力を伸ばすためには…

第一に授業中の学習活動を大切にすること

「今持っている知識や技能が低くても、授業中に知識や技能を獲得したり活用したりしようとする人、つまり授業中の活動を大切にしようとする人」は、確実に「学力」も「評価」も伸びていきます。逆に、「もともと知識や技能が高くても、新しく獲得しようとしなかった人や活用しようとしなかった人（授業中の活動を大切にしようとしなかった人）」は今求められている「学力」は身に付きません。各学年各教科で、どのような内容で評価していくかは、年度当初や事あるごとに教科担任が生徒に説明し、それに基づいて授業を進め評価をしています。

定期考査の取り組み方も大切にすること

「定期考査」の点数が「評定」に直結するとは限りません。授業中の答えや技能を導き出そうとする過程や表現の様子、提出されたノートや作品、授業中に行われる単元テストなど、様々な内容を基に評価していきます。しかし、新学習指導要領実施にともない、高校入試問題も定期考査問題も「覚えて答える問題」だけでなく、「様々な思考の様子や資料を活用したり表現したりする問題」が多く取り入れられてきています。定期考査も今後努力していく道筋を確認するものとして大切にしましょう。

心身を整え、学習に向かうことができる生活習慣を確立すること

- 1 集中して物事に取り組めるよう十分な睡眠がとれている。
- 2 脳が働くようきちんとした食習慣が定着している。
- 3 時間や決まりを守ることができる（トラブルや事故防止）。
- 4 掃除など家庭での自分の役割を果たすことができる。
- 5 インターネット等の適切な使用ができる。



◇通知表について

本校では、年間3回、学期の終わりに学習や学校生活の様子や結果を通知表として保護者にお渡ししています。学習評価（観点別学習状況の評価及び評定）は、1学期・2学期・学年末のものとしします。

通知表は、「子どもを伸ばすため」の「指針」ですので、意欲を持たせ、今後目標を持てるような視点や励ましを伝えていくことが大切になります。自分をより高めるための方策を考えるための一助となるよう、子どもの個性や長所を伸ばすために通知表を役立てていただければと考えます。

※保護者の方で評価について何か疑問点がございましたら、まずお子様に「その教科の評価の仕方」と「定期考査以外の評価内容（授業中・単元テスト・提出物・作品など）についての自分の状況」を聞いてみることをお勧めします。

